

# 鳥取大学地域医療総合教育研修センターでの 取り組みについて

## 日野オータムセミナーについて

10月13-15日の3日間、日野病院の地域医療総合教育研修センターを拠点に、医学生と看護学生と一緒に学ぶ日野オータムセミナーが開催されました。医学科3年（6名）と看護科学生（8名）がグループに分かれて、総合診療外来、黒坂診療所、看護宅配便、訪問看護、家庭訪問、保育所見学などに参加しました。米子にある医学部では同じキャンパス内といえど、医学生と看護学生が講義や実習で同席する機会はほとんどありません。今回はセンターを拠点に、日野病院や日野町のさまざまな取り組みをいっしょに見学し感想を話し合うことで、医者目線と看護目線の違いに気づくことができた



ようです。医学生は病気の診断検査治療に目が行きがちですが、看護学生はむしろ患者さんの生活やケアに焦点をあてます。学生の感想では「互いのものの見方の違いがわかった」「いろいろな人が地域を支えている」など、地域医療の現場を共有することで、双方に多くの学びがあったように感じています。今後もこのような合同教育の場を作りたいと思いますので、住民の皆さんのご協力をお願いしたいと存じます。

鳥取大学医学部地域医療学講座  
教授 谷口晋一

## 渡辺病院訪問

平成27年12月8日、岡山県新見市の渡辺病院を訪問させて頂きました。新見市はインターネットを介した介護福祉医療情報共有システムを先進的に取り入れているので、そのことについての情報交換を目的とした訪問でした。日野病院と鳥取大学医学部地域医療学講座は協働して介護福祉医療情報共有システムを開発しています。すでに、薬の残薬をできるだけ減らすためのシステムは日野郡を中心に動きはじめていますが、バージョンアップのため、患者さんの動画を共有することを検討しています。文字だけではなく、動画で日常生活動作の情報を共有することで、どんな人にも一目で理解できるようになることが狙いです。渡辺病院の理学療法士小林まり子先生は動画による転倒予想の研究をしており、その運用方法に対してもご意見をいただくことが出来ました。また、システムも重要ですが、運用に関わる人たちの関係性も重要だなあと改めて感じる事が出来ました。地域連携室の方々ともお話しする機会も持てて、今後岡山県北部の関係者のみなさんとも連携していきたいです。

鳥取大学医学部地域医療学講座  
講師 井上和興

